

各地からのたより

野鳥の宝庫で小鳥の巣箱掛け 長野市立戸隠中学校

「北信署」四月十五日、長野市立戸隠中学二年生三十三名が、まだ多くの雪が残る早春の戸隠森林植物園で、愛鳥週間に先駆けて小鳥の巣箱掛けを行いました。当日は、四月中旬とは思えない寒さでしたが、寒さを感じさせないほど、元気で明るい生徒ばかりでした。

生徒たちは、北信署員から巣箱を掛けるのに適した木、高さ、方向などの説明を受けたあと、自分たちで選木し、自作した巣箱を針金で固定していました。生徒の中にはハシゴに登るのを怖がる生徒もいましたが、他の生徒が下でハシゴを支え、「大丈夫！頑張れ！」と励まし、協力し合う姿も見られました。

同校の小鳥の巣箱掛けは、今年で三十八回目を迎える伝統行事となっております。



どんな小鳥が来てくれるかな

り、「鳥に関心を持ち、鳥類の生態について学ぶ」、「自然に親しみながら自然や動植物の保護への理解を深める」ことを目的に、当園で昭和四十八年から行っています。現在、園内には約百五十個ほどの小鳥の巣箱が掛けてあり、その九割が小鳥に利用されています。

今年の名古屋で、生物多様性条約締結国会議、「COP10」が開催され、ますます自然環境に対する関心が高まる中、野鳥の宝庫として全国的に有名な戸隠植物園での巣箱掛けは、来園者にも自然や動植物の保護への理解を深めることとなります。

当園は暖かくなると湿地になり、若葉が芽吹く五月上旬頃から、小鳥たちが巣箱を利用する姿が見られます。

小諸森林事務所が完成

「東信署」浅間山の裾野に位置する「坂の町 小諸市」に建築中の小諸森林事務所が去る三月十八日に完成しました。

旧庁舎は、敷地が二百八十六平方メートルと狭く進入路も幅約二メートルと狭かったため、小諸市のご厚意により高台に位置し立地条件も良好な市有地三百六十二平方メートルを借地し新築に至りました。

新築された建物は、地域材のカラマツ等約二十一立方メートルを使用し、外壁の一部には、カラマツ板を張るなど木の暖かみを感じられ、森林事務所としてふさわし

い建物となりました。

◆新住所◆

〒三八四〇八〇一
小諸市甲字下御堂三六七八番二六
(電話番号は変わりません)



新築された事務所の看板を掲げる
安永署長と飯島首席森林官

榎谷・大洞合同森林事務所が完成

「岐阜署」岐阜県下呂市小坂町湯屋地区に新築工事を進めてきた榎谷・大洞合同森林事務所が三月十九日に完成しました。

両森林事務所の宿舎が老朽化したことから、宿舎と森林事務所を併設し新築したもので、床面積百五十七平方メートル(中央事務所三十九平方メートル、宿舎(二戸)部分百十八平方メートル)の平屋建てで構造材にスギ・ヒメコマツ・ヒノキを使用、内装材にはカラマツ材を使用し、木の温もりを感じさせる建物となりました。

(小黒川、濁河、榎谷、大洞の合同森林事務所として業務を行ってまいりましたが、今後は小黒川・濁河合同森林事務所と榎谷・大洞合同森林事務所二つに分かれ執務することとなりますので、電話連絡等は注意をお願いします。)



看板を掲げる坂元前署長と
小林・水野森林官等

大桑村林政懇談会の開催

「南木曾支署」去る三月十七日、大桑村村長、議長はじめ八名、南木曾支署からは支署長はじめ六名が参加して林政懇談会を開催しました。

今年度、阿寺溪谷沿線で行われている修景事業や林道の改良工事の状況等を見学しながら検討を行った。阿寺溪谷は大桑村の観光の拠点の一つで、夏季の保養の場のみならず清流と森の四季の移り変わりを見に年間を通して入り込みが多い所です。

また、溪谷内には岩間から湧き出る冷水「美顔水」が長野県の「信州の名水」



あいさつする廣田支署長

「秘水」に認定され、今後多くの方が名水を汲みに訪れることが予想されることから、水源や水場の保全と活用の両面から現地で検討を行いました。

現地検討後、大桑村役場会議室に場所を移し、来年度の業務計画等の策定方針について意見交換を行いました。阿寺溪谷一体は、大桑村としても観光の重要な位置づけであり、支署としても森林整備等推進の重要な地域であることから、今後も引き続き協力していくことで意見が一致しました。

そのほか、伊奈川溪谷から中央アルプスに向かう登山道の新規貸付の協議が整うなど、益々協力的体制が整いつつあり今後に向けて有意義な林政懇談会となりました。

「南木曾支署」四月二十一日に大桑村阿寺溪谷において、「はなのきを育む阿寺溪谷」と題した行事を実施しました。

この行事は、昨年六月に林木育種センターでさし木増殖をしたハナノキの里帰りをしたことから、今年度は保護活動を継続することを参加者全員で確認することを目的に開催しました。

当日は大桑村長をはじめ、大桑村議会、阿寺溪谷の整備活動を行っている阿寺ふれあいエコクラブ等、四団体から約三十五名の参加を得ました。

村長から「ハナノキと出合いをきっかけに、阿寺溪谷の美しさを大桑村として情報発信したい」等のあいさつをいただき、ハナノキのPR用の木製看板の除幕後、飯田市でハナノキの保護活動を行っている「はなのき友の会」会長の北沢あさ子さんから、ハナノキの保護や周辺環境保全の必要性等について講演を受け、「保護活動は、保護することだけを目的とするのではなく、保護活動を通じてみんなが楽しむことが大切である」など今後の阿寺溪谷の保護活動のあり方についてアドバイスをいただきました。

講演終了後は参加者全員でハナノキ踏み荒らし防護柵の設置、灌木除去作業に汗を流し、参加者からは、「地元だけではなく、観光客にもハナノキの貴重さを

地域での「ハナノキ」の保護活動 本格的スタート

名古屋シティフォレスト事業

—金華山国有林

—土壌保護マットの敷設—

「岐阜署」五月十三日に「黄金の華咲く、金華山の森林土壌を回復しよう！」をテーマに、第二回名古屋シティフォレスト事業を金華山国有林にて実施しました。金華山は都市近郊にある貴重な自然であること、また、織田信長が天下統一の際に拠点とした岐阜城があり歴史的な



新たに作成した看板の前で記念撮影

わかってほしい」「保護活動を通じて阿寺溪谷の溪谷美を守っていききたい」等の感想も出されました。

今後は「ハナノキの保護」だけではなく、阿寺溪谷を地域の宝として、地元・各種団体と協働し保護・管理を進めていくこととしています。



植生マットを敷設する参加者

価値も高いことから、多くの人が訪れて登山や観光を楽しんでいます。

その一方で登山者の歩道の踏み外しや流水などにより、林地の裸地化も進行していることから、植生回復マットの敷設を名古屋シティフォレスト事業として企画したものです。

当日は風が強く少し肌寒くはありまし



出来映えもバッチリ



巣箱づくりを体験

「名古屋事務所」 四月二十九日に「じよ

定光寺自然休養林で 「みどりのフェスティバル10」 盛況に開催

たが青空ののぞく好天の中、十九名の隊員が植生マットの運搬及び敷設を行いました。

急斜面に張り付きながら金槌により止め杭を打ち込むという作業でしたが、職員やアドバイザーの指導の下、最初はこちなかった作業も終わる頃には驚くほど綺麗に仕上がりに、隊員もその出来映えに満足していました。

作業終了後には金華山へ登る隊員も多く、好評のうちに一日の作業を終りました。



丸太切りに挑戦

うこうじ響きの森で木と友達になろう」をテーマに、名古屋事務所、愛知森林管理事務所、瀬戸市まるっとミュージアム、観光協会主催による「みどりのフェスティバル10」を、瀬戸市にある定光寺自然休養林（じよこうじ響きの森）森林交流館周辺において開催しました。

当日の朝は激しい雨に見舞われ入場者数が心配でしたが、午前十時の開場前には雨は上がり、約二千名の方が来場されました。

今年の十月に名古屋市で開催される生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）を盛り上げるために、オープニングにCOP10記念植樹としてクロガネモチ（瀬戸市の木）とヤブツバキ（瀬戸市の花）を一般市民の方々と植樹しました。

体験コーナーでは、丸太切り、ネイ

チャークラフト、巣箱づくり、火おこしなど。学習コーナーでは、森の紙芝居、森林のクイズなど。また、アトラクションでは、モリゾー・キッコロが森から登場し、子供たちと写真撮影、国産間伐材で作られた楽器「ミンミン」の演奏やチェーンソーによる彫刻「チェーンソーパフォーマンス」があり、数多くの協賛団体による出展で会場は終日どのコーナーも大賑わいとなりました。

今後とも、地域の皆さんに気軽に自然と触れあっていたく場を提供するとともに森林・林業をPRし、森林づくりの輪を広げていきたいと思えます。

シリーズ 現場最前線

匠の技が光る蘭班

「南木曾支署蘭森林事務所班」蘭班の所属する蘭森林事務所は、南木曾町の南部、木曾川へ注ぐ蘭川を中心として南北へ広がる南蘭、北蘭国有林、国道十九号線沿いの賤母国有林の約三千鈔を管轄しています。

管内は、ヒノキを中心とした人工林が面積の約半分を占める他、中山道の馬籠宿から妻籠宿へと続く道は美しい景観を構成する天然林の林が続いています。

蘭班は製品生産事業の経験を持つ七名体制。事業内容は、除伐2類、枝打、つ



蘭班（分収育林の明認作業）

る切、歩道整備、カモシカ防護柵点検・修理、分収育林明認、林道維持修繕、境界巡検など多岐にわたります。隣接する広瀬森林事務所の管轄区域でも事業を行っていきます。

班員七名の七つの個性と匠の技が一つとなつて蘭班の原動力を生み出しています。お互いの個性や技を理解し合える雰囲気もあり、それが山づくりへの熱意と日々の安全作業に繋がっているものと感じています。

今年度末で三名の方が退職を迎えます。これまで培ってきた技や経験を次の代へ。班長を中心にミーティングや安全懇談会のなかで十分に議論し、実行し、また議論してよりよい職場環境を目指していきます。



浅間山麓の森林

〔東信署〕浅間山（標高二千五百六十八メートル）は、長野県軽井沢町、御代田町と群馬県嬭恋村との境にあり、我が国有数の活火山として知られています。

なだらかな裾野を引く浅間山の山麓では、冷涼な気候などの自然環境から、観光やリゾート地としての開発が進んでいきます。浅間山の南側は、標高千メートル付近までが国有林となっており、訪れる人々が身近に国有林と接することができます。

浅間山麓を東に向かうと、リゾート地として知られた軽井沢があります。軽井沢の星野温泉近くに、詩人北原白秋の代表作「落葉松」の詩碑が建っています。

からまつしの林を過ぎて、からまつをしみじみと見き。からまつはさびしかりけり。たびゆくはさびしかりけり。と始まるこの詩は、大正十年、白秋が当地を訪れたときに詠んだものとされ、多くの文学作品の舞台となった軽井沢の往時の情景が偲ばれます。

この場所に隣接する国有林は、「国設軽井沢野鳥の森」として、今は、自然とのふれあいを求めて訪れる多くの人々で賑わいをみせています。

古代、軽井沢内には、「勅旨牧」のひとつ「長倉の牧」があったといわれています。「勅使牧」とは、平安時代、朝廷に納める馬を生産するため、天皇の勅旨により置かれた牧場で、「長倉の牧」は軽井沢一帯の広大な面積を占めていたと考えられています。

軽井沢町内には、「駒飼いの土手」と呼ばれる「長倉の牧」の牧場跡が残っています。この「駒飼いの土手」は、浅間山麓から浅間山の側火山「石尊山」に登る途中の国有林内にもその痕跡がみられ、今は森林に覆われるこの辺りも、かつては広大な草原を馬が駆ける牧野であったことがうかがえます。



石尊山登山道

また、軽井沢から浅間山麓を西に向かった御代田町の国有林では、江戸時代末期に小諸藩によって植栽されたとされる日本最

古のカラマツ人工林や、「霧上の松」として有名なアカマツ天然林の群落を見ることが出来ます。学術的に貴重なこれらの森林は植物群群落保護林として保護されています。



日本最古のカラマツ人工林

気候冷涼な浅間山麓では、これから行楽の好季を迎えます。

活火山特有の自然条件や歴史による森林景観の成り立ちにも思いをはせながら、初夏の浅間山麓を散策してみたいかがででしょうか。

◆アクセス方法

マイカー利用の場合、上信越自動車道小諸インター又は碓井軽井沢インターから三十分から四十分程度



軽井沢野鳥の森



浅間山遠景

行事・会議等の予定

- ◎親子の森林体験教室
6月5日 北信署管内
- ◎名古屋シティ・フォレスト事業
6月9・18日 岐阜・木曽署管内
- ◎森林ふれあい講座
6月12日 愛知所管内
- ◎会計実地検査
6月14～18日 中信・木曾署、南木曾支署、局